

(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

人口	1,406,701人 (H23.3.31現在)	実質赤字率	-%
面積	3,691.09 km ²	実質赤字率	-%
人口密度	480.975/1km ²	実質赤字率	11.5%
歳入総額	469,086,212千円	将来負担比率	215.8%
歳出総額	5,279,561千円		
標準財政規模	309,644,566千円		
地方債現在高	1,072,099,472千円		

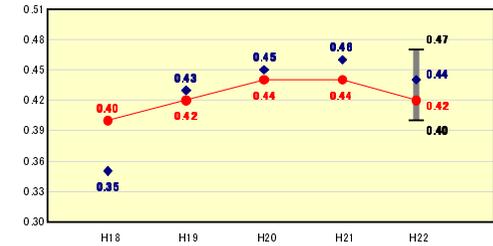


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1,000以上、Bグループ 0,500以上1,000未満、Cグループ 0,400以上0,500未満、Dグループ 0,300以上0,400未満、Eグループ 0,300未満]
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 [0.42]

グループ内順位 7/11 都道府県平均 0.49

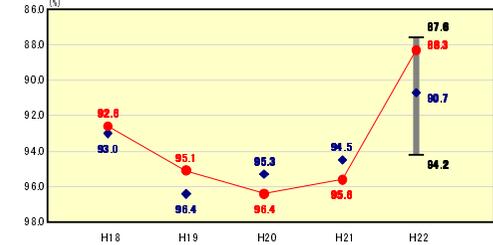


財政力指数の分析欄
 グループ内平均を下回っているのは、三位一体改革による税源移譲や臨時財政対策債発行可能額の増大等により財政力指数が上昇し、平成19年度において本県がⅢグループからⅡグループに移ったことによるものである。県税収入が歳入全体の2割強に留まるなど、財政基盤は脆弱であり、今後も歳入の確保、歳出の節減合理化に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [88.3%]

グループ内順位 3/11 都道府県平均 91.9

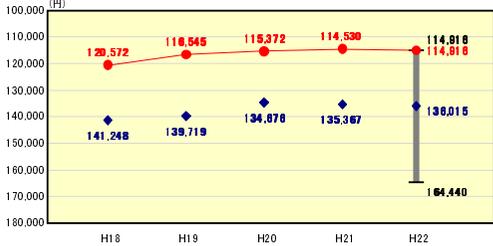


経常収支比率の分析欄
 グループ内平均を下回っているのは、公債費が他団体に比べて低いこと、平成22年度決算において、地方交付税収入が増となる一方で人件費が減になったことによる。今後も、人件費総額を抑制するとともに、通常債の発行抑制を継続するなど、経常的な経費の抑制に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [114,916円]

グループ内順位 1/11 都道府県平均 117,663

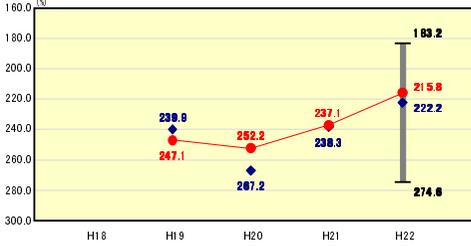


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 グループ内で最も少ないのは、定員削減により人口10万人当たりの職員数が増え、物件費等の節減合理化を行ってきたことによるものである。今後も、人件費総額の抑制や物件費等の節減合理化に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [215.8%]

グループ内順位 6/11 都道府県平均 220.8

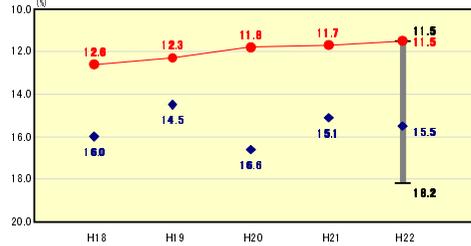


将来負担比率の分析欄
 グループ内平均を下回っているのは、臨時財政対策債等を除いた通常債について発行抑制に努めてきたこと、交付税措置のある財源的に有利な県債を活用してきたこと、平成21年度及び平成22年度において財政調整基金や県債管理基金の取崩しを行わない一方で、決算剰余金を基金に積み立てたことによるものである。引き続き通常債の発行抑制や定数適正化に努め、将来負担を極力軽減する。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [11.5%]

グループ内順位 1/11 都道府県平均 13.5



実質公債費比率の分析欄
 グループ内で最も少ないのは、臨時財政対策債等を除いた通常債について発行抑制に努めてきたことや、交付税措置のある財源的に有利な県債を活用してきたことによるものである。引き続き今後の公債費負担の軽減のため、通常債の発行抑制に努める。

定員管理の状況

人口10万人当たり職員数 [1,105.00人]

グループ内順位 1/11 都道府県平均 1,133.74

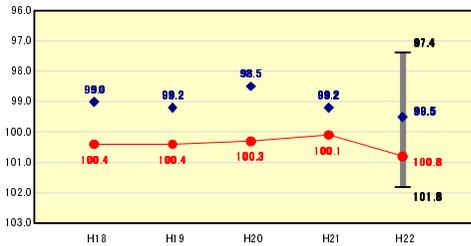


人口10万人当たり職員数の分析欄
 グループ内で最も少ないのは、平成11年度から22年度までの12年間にわたる定員削減の実施により2,756人(21,227人→18,471人)を削減したことによるものである。今後も、新たに策定した定員適正化計画に基づき、更なる定員適正化に取り組む。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレース指数 [100.8]

グループ内順位 10/11 都道府県平均 99.3



ラスパイレース指数の分析欄
 グループ内平均を上回っているが、地域手当を考慮した場合には指数が97.0となり、地域手当考慮後のグループ内平均の98.6を下回る。これは本県の地域手当の支給率が、国基準より低いことによるものである。今後も適正な給与水準を維持するため、諸手当の見直しなど引き続き情勢の変化に応じた見直しを行う。